

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-153314

(P2002-153314A)

(43) 公開日 平成14年5月28日 (2002.5.28)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード(参考)
A 4 5 C 13/30		A 4 5 C 13/30	N 5 K 0 2 3
H 0 4 M 1/02		H 0 4 M 1/02	C
1/11		1/11	Z

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2000-391642(P2000-391642)

(22) 出願日 平成12年11月17日 (2000. 11. 17)

(71) 出願人 500583966

山西 敏夫

三重県度会郡小俣町元町346番地

(71) 出願人 500583977

山西 由人

三重県度会郡小俣町元町346番地

(71) 出願人 500584011

山西 布佐子

三重県度会郡小俣町元町346番地

(72) 発明者 山西 敏夫

三重県度会郡小俣町元町346番地

(72) 発明者 山西 由人

三重県度会郡小俣町元町346番地

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 携帯電話ストラップ

(57) 【要約】

【目 的】この発明は、携帯電話5をズボンの内側に入れ、クリップ2をズボンの上端等に止めて、携帯電話5を吊し持ち携帯、使用する装置に関するものである。

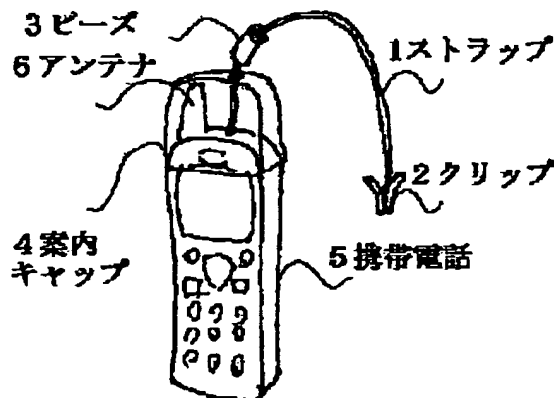
【構 成】(イ) ストラップ1に案内キャップ4とビーズ3を通し、クリップ2を取り付ける。

(ロ) ストラップ1と携帯電話5を繋ぐ。

(ハ) 携帯電話5のアンテナ6を被うように案内キャップ4をかぶせ、ビーズ3で押さえる。

(ニ) その携帯電話5をズボンの内側に差し込み入れて、クリップ2をズボンの上部端、又はベルトやベルト通し等に取り付け吊す。

以上のように装置する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】ストラップ1に、案内キャップ4とビーズ3を通しクリップ2を取り付けた携帯電話ストラップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、ズボン等の内側に携帯電話を吊し持ち携帯、使用する装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、携帯電話を所持するため上着やズボン等のポケットに入れているが、ポケットがいっぱいになる、少し激しい動作をすると携帯電話がポケットから飛び出す、夏は上着を着用しないため入れる箇所が少ない、パイプレータ着信が歩行中等の時は判明しにくい等、不都合が多かった。クリップの付いたストラップで衣服に止めて落下防止をする方法があるが落下防止のみの解決であって、走ると携帯電話がポケットから飛び出してブラブラしたりするため、衣服の上から携帯電話を押さえながら走らなければならない等、他の不都合は解決していない。腰等に付て所持する携帯電話ホルダーもあるが、ベルトの外側へ突出して膨らむため所持に異物感があり、又、ファッション的にも余り好まれていない。やむなく、バッグ等に入れて持ち歩いている人も多いが荷物にもなり置き忘れる心配がある。又、パイプレータ着信はほとんど判りにくい等の難点もある。今や、携帯電話はなくてはならない物ではあるが、その所持するための適当な箇所が無いのが現状であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】携帯電話を所持するための、適当な箇所が無いだろうかと考慮したところ、ズボンの内側に吊し持てばポケットには関係なく所持でき、ズボンに覆われているため外側へ突出して膨らむこともなく、体の屈伸や激しい運動をしても携帯電話は落下せず、日常の行動に支障しない箇所があることが判明した。しかし、ズボン内側では吊し持つ事に支障はなくても、そこからの取り出しに問題があった。ベルトで締め付けられたズボンの内側に携帯電話を吊し持ち、携帯電話の着信時に素早く取り出そうとしても、衣服の布地に携帯電話のアンテナ等が引っかかり、うまく取り出す事ができない。又、携帯電話の着信音は場所や状況によっては使用する事ができず、パイプレータを設定する事があるが、携帯電話が体に密着していないと歩いている時等では、着信に気が付かない事があった。本発明は、これらの問題を解決しようとして発明されたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】いまその解決手段を図面で説明すれば、

(イ) ストラップ1に案内キャップ4とビーズ3を通し、クリップ2を取り付ける。

(ロ) (イ)のストラップ1と携帯電話5を繋ぐ。

(ハ) アンテナ6の上から携帯電話5を被うように案内キャップ4をかぶせ、ビーズ3で押さえる。

(ニ) (ハ)で装備した携帯電話5をズボンの内側に差し込み入れて、クリップ2をズボンの上部端、又はベルトやベルト通し等に取り付け吊す。

以上のように装置する。

【0005】

【作用】次に本発明の作用を述べると、携帯電話5の着信時はクリップ2を外して持ち、携帯電話5を引き抜く。携帯電話5にかぶせた案内キャップ4は頭部が丸くなっており、衣服の布地を引っ掛ける事なく押し分ける。携帯電話5は簡単に引き抜く事ができる。反対の手で携帯電話5を握り、クリップ2を放してその手で案内キャップ4を外し、アンテナ6を伸ばして受話応答する。携帯電話5の着信時の受話、応答が支障なく行える。又、ストラップ1の長さを短くして携帯電話5を吊し持てば、ベルトの締め付けにより携帯電話5は常に体に密着する。パイプレータ着信を確実に認識する事ができる。尚、携帯電話5の着信、引き抜き時等にボタンが誤操作される恐れがあるため着信時は誤動作防止の操作をしておくが良い。

【0006】

【実施例】第1図は、この発明の第1実施例を示す斜視図である。ストラップ1に、案内キャップ4とビーズ3を通しクリップ2を繋いだ。このストラップ1を携帯電話5に繋ぎ、アンテナ6の上から案内キャップ4を被せてビーズ3で押さえてズボンの内側に吊し持つ。携帯電話5を、ポケットを使用しないで、常に身に付けて携帯する事ができ、着信時の取り出し、受話応答が素早く行う事ができる。第2図は、この発明の第2実施例を示す斜視図である。第1実施例のものでは、携帯電話5の引き抜き時に携帯電話5を取り付けるストラップ1の細い部分に負荷が掛かりすぎ、切断する恐れがある。第2実施例では、ストラップ1にストッパー7を取り付けた。携帯電話5を引き抜くときは、ストッパー7に止められている案内キャップ4に全負荷が掛かりストラップ1の細い部分に負荷は掛からない。第3図は、この発明の第3実施例を示す使用断面斜視図である。第1実施例のものでは、着信時いちいち両手でクリップ2を外さなければならない。片手に何かを持っているときは素早く行う事ができない。第3実施例では、平板状の物を折り曲げた形のクリップ2としている。クリップ2の取り付けは、ズボン8の上部端に差し込み、クリップ2の口はベルト9の裏にかくれるようにズボン8とベルト9の間に入れる。クリップ2は薄いから異物感は無く、ベルト8の裏に隠れ、着信しても殆どその着信が外見上、見えなからファッション的な面を支障する恐れが無い。クリップ2は、常時、携帯電話5の自重による下方向への引っ張り力と、ベルト9の締め付け力を受け、どんな激しい

動きをしても外れる事は無い。携帯電話5を取り出す時は、片手の親指をズボン8の内側に差し込みクリップ2を引っ掛け持ち、引き抜く。携帯電話5は簡単に取り出す事ができる。第4図は、この発明の第4実施例を示す斜視図である。第3実施例のものでは、着信時クリップ2の位置を探さなければならない。第4実施例では、クリップ2に握りひも10を取り付けている。ベルトのあたりを探れば、簡単に握りひも10が手に当たりクリップ2を握る事ができる。又、この握りひも10はベルト付近のアクセサリにもなる。尚、被せた案内キャップ4が携帯電話5と密着していないと、ズボンの内側に吊り下げた時、動く度に携帯電話5と案内キャップ4が当たり音がする。この音を防止するためには、

(イ) 案内キャップ4の内側にスポンジを入れる。

(ロ) 案内キャップ4の内面を、携帯電話5の頭部やアンテナ6の型に合わせて密着させる。

(ハ) 案内キャップ4の材質を音の出ない物で作る。等の方法がある。尚、本発明の最重点である案内キャップ4は、携帯電話5のアンテナ6が衣服の布地に引っかかるのを防止するためのものであるが、携帯電話5にアンテナ6を完全に収納させるか内蔵させれば、案内キャップ4は不要となる。アンテナ6を内蔵させるか、収納時突起する箇所の無い構造の携帯電話5を作れば、更に取り扱い易いものになることを付記しておく。

【0007】

【発明の効果】携帯電話5を腰の側面等に吊し持てば、体の屈伸等に支障することは無い。ズボンの内側に吊し持っているため、携帯電話5はズボンにカバーされて、

どんなに激しい運動をしても落下したり飛び出したりする事は無い。第3実施例によるクリップ2を着装すれば、外見上殆ど見えないからファッション的な問題に関係が無く、又動きも自由に取れる。ポケットに入れるのではないから、ポケットが塞がる事はなく、季節による服装の変化にも困る事は無い。ストラップ1の長さを短くすれば、携帯電話5はベルトの近くに吊し持たれる事になり、ベルトの締め付けにより携帯電話5は常に体に密着し、バイブレータによる着信を確実に認識する事ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例の斜視図

【図2】本発明の第2実施例の斜視図

【図3】本発明の第3実施例の使用断面斜視図

【図4】本発明の第4実施例の斜視図

【図5】本発明の第4実施例の使用図

【符号の説明】

1はストラップ

2はクリップ

3はビーズ

4は案内キャップ

5は携帯電話

6はアンテナ

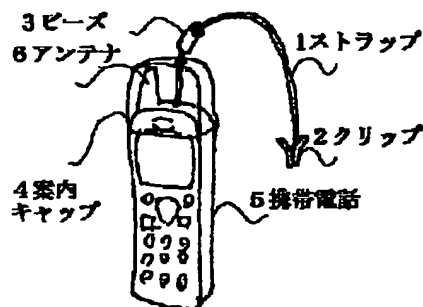
7はストッパー

8はズボン

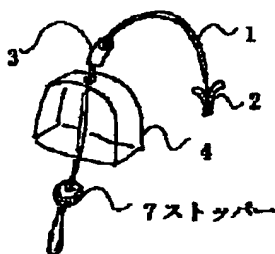
9はベルト

10は握りひも

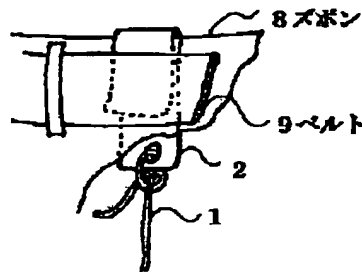
【図1】



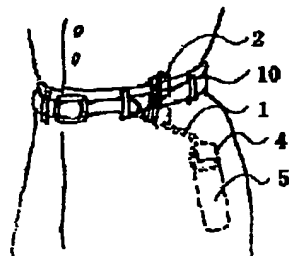
【図2】



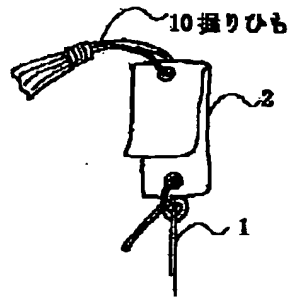
【図3】



【図5】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 山西 布佐子
三重県度会郡小俣町元町346番地

Fターム(参考) 5K023 AA07 BB02 KK00 KK01